東淀川区地域 ゆめ・まち会議

(株)地域計画研究所
取締役主管研究員　飯島（いいじま） 照喜（てるき）さん

1. まちづくり活動等の目的や活動の経緯

啓発地域のまちづくりは、地域の魅力向上や課題解決のための活動というより、活動への「きっかけ」づくり、いわばまちづくり活動への離陸のための活動といえる。

活動の主体は「地域ゆめ・まち会議」で、連合振興町会(以下連合)からの推薦や一般公募から構成され、リーダー塾で育成されたリーダーを中心にして展開される。地域ゆめ・まち会議は町内会などの地縁的団体がバラバラに活動することなく、地域の課題を共有し、地域が有する総合力を活性化するプラットホーム的な役割を担っている。

啓発地域のまちづくり活動は、東淀川区の「地域で自主的にまちづくりに取り組める人材(リーダー)を育成し、また地域において活動できる場(会議)を提供することにより、住民主体のまちづくりを推進する」ことを目的に、地域ゆめ・まちリーダーを育成し、そのリーダーを中心として開催する「地域ゆめ・まち会議」によって2006（平成18）年度に始まったものである。

大阪市では、地域の特性や魅力を生かし、区の将来像とその実現に向けた市民活動の方向性を示した「わがまちビジョン」を各区で作成、その実現化のため市民活動事業が行われており、東淀川区の地域ゆめ・まち会議もその一環である。

東淀川区の特徴は、各連合振興町会を1地域として、地域ゆめ・まち会議を開催していることにある。東淀川区には18連合振興町会があり、1年に6連合町会(地域)、3年間で全ての連合で地域ゆめ・まち会議を立ち上げようとするものである。

2. まちづくりの活動内容

①地域の概要

啓発連合振興町会(以下啓発地域と称する)は、西はJR新大阪駅と東は阪急崇禅寺駅に挟また、区画整理がある程度進んでいる地域である。ただ2005（平成17）年国勢調査でみると、人口10,239人、世帯数7,026、１世帯当たり人口約1.5人と過去10年に比較し、人口が減少し、世帯の少人数化が進んでいる。また少子高齢化も進展しており、啓発小学校では過去10年間に児童数が90人減少し、2006（平成18）年現在230人と東淀川区内小学校で最も児童数の少ない小学校となっている。さらに区画整理の進展にともない新大阪駅周辺ではマンション、なかでもワンルームマンションが立地し、地域の活動に関心が薄い住人の居住が地域の課題となっている。

②まちづくり活動の背景と経緯

啓発地域は1961（昭和36）年の新大阪周辺の区画整理事業の進展とともに、田園風景が随所に見られた街並みから大変貌を遂げており、その特徴は地域福祉アクションプランでみると、①20歳代が多い②公共住宅・高層マンションにより人口が大幅に増加、③庶民的な町で公共施設が充実し、ボランティア活動は熱心で、④地域の福祉・人権意識が高い、ことである。半面、住民懇談会では①高齢者②マナー③地域④地域環境⑤地域施設・公共機関⑥当事者の声（障害者など）などに関することが、地域の課題として指摘されている。そこには、少子高齢化、家族形態の多様化・個性化、ワンルームマンションの増加などによる地縁的な「つながり」の希薄化が進行している。

③まちづくり活動の基本イメージ

まちづくり活動にとって重要なのは、夢やビジョ

ンであり、地域住民そのものに力を与え、自発性を引き出すことにある。

そのため、まちづくり活動のテーマ（イメージ）を設定し、議論の主題をある程度明らかにした。基本イメージは、まちづくりワークショップを開催する前に、地域のリーダーとともに、地域の特性や課題を踏まえ、作成したもので、そのイメージに基づき、ワークショップ各回のテーマを設定し、ディスカッションを行った。当然ワークショップのプロセスによって、基本イメージが修正されるものの、結果として修正があるほど「住民自らが主体的」にディスカッションに参加したということになる。

(2)ワークショップの流れとまちづくりの方向性

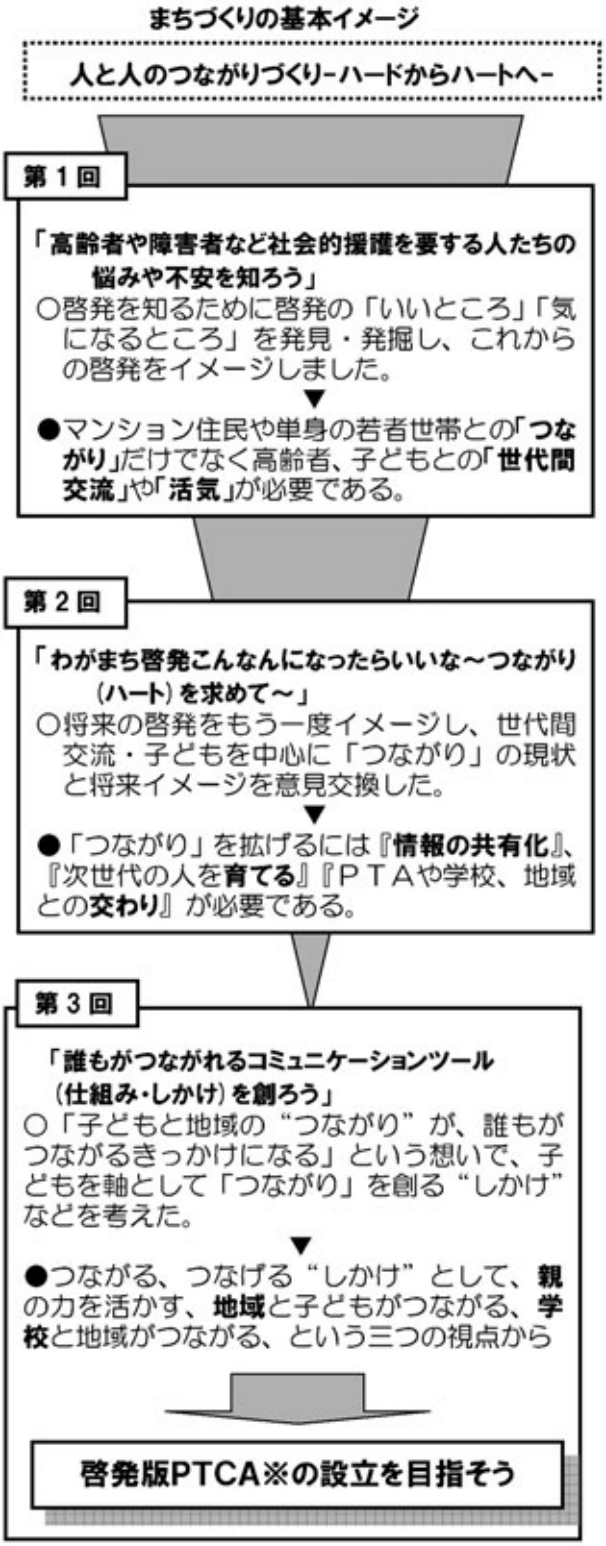
基本イメージ「人と人のつながりづくりーハードからハートへー」は、住民のディスカッションにより『啓発版PTCA設立を目指す』という具体的な方向性に収斂し、まちづくりの活動テーマがイメージ（抽象性）から具体性へとより明確になった。

PTCAは「PTAに地域住民が加わった『親と教師と地域住民』の組織のこと。地域の子どもたちは地域で育てる、いわば地域住民がみんなで学校を創る「共育」の考え方に由来しており、家庭・学校・地域社会の三者が、子どもの教育について緊密に連携した組織」といえる。子どもや子育てを、基本イメージ「人と人の『つながり』」の基本として捉え、それらに関わる活動を地域活動の推進力としようというものである。

3. 事例先のまちづくり活動での工夫など

・啓発地域のまちづくり活動では、まちづくり活動への離陸のための活動、さらに地縁的団体等からの参加者ということから、有する課題は多様であり、活動としての方向性が拡散することを懸念していた。そのため、前述したように基本イメージを設定し、ワークショップの議論のなかで、参加者の問題意識の共有化や意識の共通化を図りつつ、イメージを修正し方向性を明確にした。

・地縁的団体等では、指導者の高齢化・固定化が進んでおり(地縁団体の共通の課題)、PTAや青少年指導員などの比較的若い参加者が発言しにくい雰囲気があるため、事前にワークショップの心がけをスピーチしている。



4．今後予定している活動や目標

“しかけ”として、考えてみた･･･

○親の力を活かす

・親を呼ぶなら、まずは子どもを呼ぼう。

・積極的に地域に関わる家庭で育ち、親となった人とその友達を巻き込んでみよう。

○地域と子どもがつながる

・小学生だけでなく「中学生」も地域のつながりに参加してもらおう。

・中学生や小学生をふれあい喫茶の手伝いをお願いしてみよう。

○学校と地域がつながる

・「学校」と「地域」がつながり、“啓発”のつながりを拡大させよう。

・学校から地域だけでなく、地域から学校へ向けて働きかけてみよう。

・授業を「昔の遊び会」などを地域から働きかけて開催してみよう。

目指すのは「啓発版ＰＴＣＡの設立」

そのため、地域ゆめ・まち会議を交流やつながりの拠点として継続していこう

5．他の地域への参考となるアドバイス

地縁団体等ではそれぞれの分野で活動・活躍しており、その分野にかけては人脈・情報を有している住民が多い。この人達を発見・発掘することは活動をスムーズに進めるための重要な要因である。半面、個人的なつながりなどはあるが、団体間のコミュニケーションは十分とは言い難い側面があり、ワークショップではじめ「知る」ということもある。

今回のテーマなど進め方の説明です

マップを前にして、地域の「いいところ」「気になるところ」を議論しています。

いろいろでてきました
「いいところ」「気になるところ」

さぁ、発表です。各班の成果を